



# 令和7年1月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

令和6年9月9日

上場会社名 株式会社きんえい

上場取引所 東

コード番号 9636 URL <https://www.kin-ei.co.jp/>

代表者（役職名）取締役社長（氏名）作田 憲彦

問合せ先責任者（役職名）常務執行役員経理部長（氏名）藤下 修（TEL）06(6632)4553

半期報告書提出予定日 令和6年9月10日 配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 令和7年1月期第2四半期（中間期）の業績（令和6年2月1日～令和6年7月31日）

### （1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
7年1月期中間期	1,795	△2.1	169	△2.2	171	△0.7	117	△0.7
6年1月期中間期	1,833	12.9	172	70.1	172	64.2	117	38.8

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
7年1月期中間期	41.98	—
6年1月期中間期	42.29	—

### （2）財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
7年1月期中間期	5,783		2,541		43.9
6年1月期	5,867		2,449		41.7

（参考）自己資本 7年1月期中間期 2,541百万円 6年1月期 2,449百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
6年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
7年1月期	—	0.00	—	—	—
7年1月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 令和7年1月期の業績予想（令和6年2月1日～令和7年1月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,520	△1.4	240	△6.2	250	△1.7	155	0.0	55.59

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

7年1月期中間期	2,821,000株	6年1月期	2,821,000株
7年1月期中間期	32,909株	6年1月期	32,817株
7年1月期中間期	2,788,106株	6年1月期中間期	2,788,341株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中における将来に関する事項は、当中間会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、企業収益は緩やかに改善し、設備投資に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響には引き続き注意が必要であり、海外における政情不安や中国経済の成長鈍化などによる海外景気の下振れリスクが懸念され、先行きは不透明な状況で推移しております。

この間、当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度の高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図りましたところ、売上高は、前年同期に比較して2.1%減の1,795,720千円となりました。さらに、諸経費全般に亘って鋭意抑制に努めました結果、営業利益は2.2%減の169,097千円、経常利益は0.7%減の171,164千円、中間純利益は0.7%減の117,057千円となりました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門につきましては、「あべのアポロシネマ」において“名探偵コナン 100万ドルの五稜星(みちしるべ)”“劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦”“変な家”“キングダム 大將軍の帰還”“映画ドラえもん のび太の地球交響楽(ちきゅうシンフォニー)”“ルックバック”“「鬼滅の刃」絆の奇跡、そして柱稽古へ”“劇場版ブルーロック-EPIISODE 凧-”“怪盗グルーのミニオン超変身”“機動戦士ガンダムSEED FREEDOM”などの作品を上映して観客誘致に努めるとともに、6月に映画鑑賞料金の改定を実施しました。また、「あべのハルカス」「あべのキューズモール」「天王寺ミオ」などの周辺施設と連携し、積極的な販売促進を図るとともに、フード売店の販売強化に注力しました。「スクリーン1」から「スクリーン8」までの8スクリーンのデジタル映写機を更新し、「スクリーン4」及び「スクリーン7」の天井照明をLED化するなど、より快適にご鑑賞いただける環境を整備いたしました。また、娯楽場事業におきましては、「あべのアポロシネマ」と一体となった集客を推進いたしました結果、部門全体の収入合計は780,131千円となり、営業原価控除後では、85,364千円の営業利益となりました。

不動産事業部門におきましては、アポロビルにおいて、雑排水管の更新、誘導灯の更新、バルコニー防水工事、新規テナント誘致に伴う防火・防災設備、給水設備等の諸工事を実施し、ビルの機能及び安全性の向上を図りました。ルシアスビルにおいて、電気室設備機器、空調機器、排水管、上水高架水槽等の更新工事及び冷温水機の整備工事などを計画的に実施し、より安全で快適なビルづくりを推進しました。また、空室への後継テナント誘致に注力するなど賃貸収入の確保に努めました結果、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めた部門全体の収入合計は、1,015,589千円となり、営業原価控除後では232,392千円の営業利益となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産、負債及び純資産の分析

当中間会計期間末における総資産は、短期貸付金の減少等により前期末に比較して83,576千円減少し、5,783,980千円となりました。

負債は、設備関係未払金の減少等により前期末に比較して175,345千円減少し、3,242,507千円となりました。

また、純資産は、中間純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前期末に比較して91,769千円増加し、2,541,473千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動による収入が投資活動及び財務活動による支出を上回ったため、前事業年度末と比較して7,333千円増加し、82,581千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動で得られた資金は、税引前中間純利益の計上及び減価償却費等により250,215千円となりました。前年同期と比較しますと、未払金の減少額の縮小等により49,411千円収入額が増加しております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動で使用した資金は、固定資産の取得等により177,151千円となりました。前年同期と比較しますと、有形固定資産の取得による支出の増加等により50,952千円支出額が増加しております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動で使用した資金は、長期借入金の返済等により65,730千円となりました。前年同期と比較しますと、34千円支出額が減少しております。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、シネマ・アミューズメント事業部門では、あべの・天王寺エリア唯一の映画館「あべのアポロシネマ」への一層の集客を目指し、魅力ある作品の上映に努めるとともに、安心・快適な環境で映画を楽しんでいただけますように計画的な設備等の更新に取り組んでまいります。さらに、周辺商業施設との共同販売促進策を積極的に推進し、また、簡単・便利な「チケット予約システム」や映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」を積極的にアピールし、集客に努めてまいります。

また、不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持向上による賃貸収入の確保を図るのとはもとより、引き続き設備更新・改良工事等を計画的に進めるなど、ビルのさらなる機能向上を図るとともに、省エネルギー化にも十分に配慮し、より安全で快適な環境づくりに努めてまいります。加えて、「あべのアポロシネマ」との連携を一層推進し、顧客誘致に全力で取り組むことにより、あべの・天王寺エリアの賑わいの創出を図るとともに、安定した経営基盤の確立並びに事業の発展に格段の努力を傾けてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

通期の予想につきましては、売上高は3,520百万円(前期比1.4%減)、営業利益は240百万円(前期比6.2%減)、経常利益は250百万円(前期比1.7%減)、当期純利益は155百万円(前期比0.0%増)となる見込みであります。なお、令和6年3月15日に「令和6年1月期決算短信(非連結)」にて公表した業績予想から、売上高および営業利益を30百万円、経常利益を40百万円、当期純利益を25百万円それぞれ増額しております。

## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和6年1月31日)	当中間会計期間 (令和6年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	75,248	82,581
売掛金及び契約資産	117,294	83,155
商品	4,081	4,199
短期貸付金	718,131	643,481
その他	51,797	65,028
貸倒引当金	△810	△690
流動資産合計	965,743	877,756
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,747,440	2,655,633
機械及び装置(純額)	45,193	107,318
工具、器具及び備品(純額)	73,408	59,845
土地	1,123,748	1,123,748
有形固定資産合計	3,989,791	3,946,546
無形固定資産	5,802	3,440
投資その他の資産		
差入保証金	850,372	890,112
その他	55,847	66,124
投資その他の資産合計	906,219	956,237
固定資産合計	4,901,813	4,906,223
資産合計	5,867,556	5,783,980
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	113,456	114,624
短期借入金	350,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	75,000	281,250
未払法人税等	52,630	59,510
賞与引当金	9,300	9,300
その他	663,572	503,109
流動負債合計	1,263,959	1,317,793
固定負債		
長期借入金	243,750	-
退職給付引当金	65,349	67,968
受入保証金	1,554,040	1,566,744
資産除去債務	290,000	290,000
その他	753	-
固定負債合計	2,153,893	1,924,713
負債合計	3,417,852	3,242,507

(単位:千円)

	前事業年度 (令和6年1月31日)	当中間会計期間 (令和6年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,965,230	2,054,406
自己株式	△112,167	△112,516
株主資本合計	2,441,419	2,530,246
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,284	11,227
評価・換算差額等合計	8,284	11,227
純資産合計	2,449,703	2,541,473
負債純資産合計	5,867,556	5,783,980

## (2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 令和5年2月1日 至 令和5年7月31日)	当中間会計期間 (自 令和6年2月1日 至 令和6年7月31日)
売上高	1,833,887	1,795,720
営業原価	1,514,163	1,477,964
営業総利益	319,724	317,756
一般管理費	146,735	148,659
営業利益	172,988	169,097
営業外収益		
受取利息	882	1,561
受取配当金	204	260
保険差益	3	1,709
雑収入	1,209	1,289
営業外収益合計	2,299	4,820
営業外費用		
支払利息	2,881	2,747
雑支出	4	6
営業外費用合計	2,886	2,753
経常利益	172,402	171,164
特別損失		
固定資産除却損	1,154	2,086
特別損失合計	1,154	2,086
税引前中間純利益	171,248	169,077
法人税、住民税及び事業税	55,508	54,132
法人税等調整額	△2,187	△2,113
法人税等合計	53,320	52,019
中間純利益	117,927	117,057



## (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 令和5年2月1日 至 令和5年7月31日)	当中間会計期間 (自 令和6年2月1日 至 令和6年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純利益	171,248	169,077
減価償却費	152,230	146,697
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△100	△120
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,600	-
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,075	2,619
受取利息及び受取配当金	△1,086	△1,821
支払利息	2,881	2,747
固定資産除却損	1,154	2,086
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	5,076	34,138
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△12,977	△13,044
仕入債務の増減額(△は減少)	24,719	1,168
未払金の増減額(△は減少)	△113,220	△42,230
その他の流動負債の増減額(△は減少)	13,423	3,355
その他	△8,346	△5,836
小計	235,479	298,839
利息及び配当金の受取額	1,116	1,754
利息の支払額	△2,894	△2,868
法人税等の支払額	△32,897	△47,509
営業活動によるキャッシュ・フロー	200,803	250,215
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△162,525	△204,889
短期貸付金の増減額(△は増加)	97,212	74,649
差入保証金の増減額(△は増加)	△36,215	△39,739
受入保証金の増減額(△は減少)	△1,743	12,703
その他	△22,927	△19,875
投資活動によるキャッシュ・フロー	△126,198	△177,151
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△37,500	△37,500
配当金の支払額	△27,883	△27,881
その他	△381	△348
財務活動によるキャッシュ・フロー	△65,765	△65,730
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	8,839	7,333
現金及び現金同等物の期首残高	75,622	75,248
現金及び現金同等物の中間期末残高	84,462	82,581

## (4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前中間会計期間(令和5年2月1日から令和5年7月31日まで)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	723,378	—	723,378	—	723,378
ビル共益費等収入	—	195,659	195,659	—	195,659
娯楽場及びその他事業収入	105,355	12,399	117,755	—	117,755
顧客との契約から生じる収益	828,733	208,059	1,036,792	—	1,036,792
その他の収益	—	797,094	797,094	—	797,094
外部顧客への売上高	828,733	1,005,153	1,833,887	—	1,833,887
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	828,733	1,005,153	1,833,887	—	1,833,887
セグメント利益	91,352	228,371	319,724	△146,735	172,988

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当中間会計期間(令和6年2月1日から令和6年7月31日まで)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	中間 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	700,196	—	700,196	—	700,196
ビル共益費等収入	—	198,923	198,923	—	198,923
娯楽場及びその他事業収入	79,934	13,937	93,871	—	93,871
顧客との契約から生じる収益	780,131	212,860	992,991	—	992,991
その他の収益	—	802,728	802,728	—	802,728
外部顧客への売上高	780,131	1,015,589	1,795,720	—	1,795,720
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	780,131	1,015,589	1,795,720	—	1,795,720
セグメント利益	85,364	232,392	317,756	△148,659	169,097

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。